

II 事業報告

1. 看護生涯学習専門部会

1-1)-①

事業名	公開講座開催事業																																																																								
対 象	地域住民																																																																								
事業組織	川原 瑞代、大館 真晴、甲斐 鈴恵																																																																								
事業計画	目的： 大学の有する知的財産、人的資源等を広く地域社会に開放し、社会における大学の使命を果たす。																																																																								
	実施内容： 本学教員や各分野で活動している方を講師に、本学の独自開催や他機関との合同開催などの方法により、本学又は県内各地で公開講座を開催する。																																																																								
実施状況及び結果	1. 開催方法 ①H25 年度実施の県内市町村の公開講座に関するニーズ調査の結果から、大学との共同開催の希望のあった市町村に出向いて実施した。(門川町、小林市、日向市) ②「神話のふるさと県民大学 宮崎の文化に親しむ」は、本学看護研究・研修センター、県立図書館、宮崎県記紀編さん記念事業推進室の主催で行った。 ③本学ホームページ、宮崎県ホームページ、ポスター、地元紙等で広報を行った。																																																																								
	2. 開催実績 (表 1)																																																																								
	表 1 一般公開講座実績																																																																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>日 時</th> <th>講座名</th> <th>講 師</th> <th>内 容</th> <th>場 所</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="7">■一般公開講座</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>8月7日(木) 10:00-12:00</td> <td>私の器</td> <td>Eric E.Larson 伊藤五恵 (現代陶芸家)</td> <td>「焼き物」制作と講話、 談話。</td> <td>宮崎県立看護大学</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>10月16日(木) 19:00-20:30</td> <td>門川町町民健康講座&宮崎県立看護大学公開講座</td> <td>林 克裕 (宮崎大学医学教育改革推進センター長)</td> <td>沈黙の臓器“肝臓”からのSOS</td> <td>門川町役場</td> <td>51</td> </tr> <tr> <td colspan="7" style="text-align: right;">*遂行人数に満たなかったため</td> </tr> <tr> <td colspan="7">■文化に親しむ講座</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>9月6日(土) 14:00-16:00</td> <td rowspan="5">神話のふるさと県民大学 宮崎の文化に親しむ</td> <td>伊藤一彦 (県立図書館名誉館長)</td> <td>伝統と革新の女性—与謝野晶子・柳原白蓮から俵万智・大川玲子まで—</td> <td rowspan="2">県立図書館</td> <td>88</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>9月13日(土) 14:00-16:00</td> <td>大館真晴 (宮崎県立看護大学)</td> <td>記紀にみるヤマトタケルの物語—ヤマトタケルが記述された理由—</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>9月27日(土) 14:00-16:00</td> <td>大館真晴</td> <td>記紀にみる諸県郡の物語</td> <td>小林市</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>10月18日(土) 14:00-16:00</td> <td>伊藤一彦</td> <td>名作の舞台となった宮崎—古代の神話から現代の作家が書いた小説まで—</td> <td>日向市</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>特別講演</td> <td>9月20日(土) 12:00-14:00</td> <td>上野誠 (奈良大学) 伊藤一彦</td> <td>古代人の宴</td> <td>県立図書館</td> <td>71</td> </tr> </tbody> </table>		日 時	講座名	講 師	内 容	場 所	参加人数	■一般公開講座							1	8月7日(木) 10:00-12:00	私の器	Eric E.Larson 伊藤五恵 (現代陶芸家)	「焼き物」制作と講話、 談話。	宮崎県立看護大学	中止	2	10月16日(木) 19:00-20:30	門川町町民健康講座&宮崎県立看護大学公開講座	林 克裕 (宮崎大学医学教育改革推進センター長)	沈黙の臓器“肝臓”からのSOS	門川町役場	51	*遂行人数に満たなかったため							■文化に親しむ講座							1	9月6日(土) 14:00-16:00	神話のふるさと県民大学 宮崎の文化に親しむ	伊藤一彦 (県立図書館名誉館長)	伝統と革新の女性—与謝野晶子・柳原白蓮から俵万智・大川玲子まで—	県立図書館	88	2	9月13日(土) 14:00-16:00	大館真晴 (宮崎県立看護大学)	記紀にみるヤマトタケルの物語—ヤマトタケルが記述された理由—	46	3	9月27日(土) 14:00-16:00	大館真晴	記紀にみる諸県郡の物語	小林市	42	4	10月18日(土) 14:00-16:00	伊藤一彦	名作の舞台となった宮崎—古代の神話から現代の作家が書いた小説まで—	日向市	19	特別講演	9月20日(土) 12:00-14:00	上野誠 (奈良大学) 伊藤一彦	古代人の宴	県立図書館	71
		日 時	講座名	講 師	内 容	場 所	参加人数																																																																		
	■一般公開講座																																																																								
	1	8月7日(木) 10:00-12:00	私の器	Eric E.Larson 伊藤五恵 (現代陶芸家)	「焼き物」制作と講話、 談話。	宮崎県立看護大学	中止																																																																		
	2	10月16日(木) 19:00-20:30	門川町町民健康講座&宮崎県立看護大学公開講座	林 克裕 (宮崎大学医学教育改革推進センター長)	沈黙の臓器“肝臓”からのSOS	門川町役場	51																																																																		
	*遂行人数に満たなかったため																																																																								
	■文化に親しむ講座																																																																								
1	9月6日(土) 14:00-16:00	神話のふるさと県民大学 宮崎の文化に親しむ	伊藤一彦 (県立図書館名誉館長)	伝統と革新の女性—与謝野晶子・柳原白蓮から俵万智・大川玲子まで—	県立図書館	88																																																																			
2	9月13日(土) 14:00-16:00		大館真晴 (宮崎県立看護大学)	記紀にみるヤマトタケルの物語—ヤマトタケルが記述された理由—		46																																																																			
3	9月27日(土) 14:00-16:00		大館真晴	記紀にみる諸県郡の物語	小林市	42																																																																			
4	10月18日(土) 14:00-16:00		伊藤一彦	名作の舞台となった宮崎—古代の神話から現代の作家が書いた小説まで—	日向市	19																																																																			
特別講演	9月20日(土) 12:00-14:00		上野誠 (奈良大学) 伊藤一彦	古代人の宴	県立図書館	71																																																																			
参加者の合計は 317 名であった。																																																																									
3. 受講後の感想など																																																																									
①一般公開講座																																																																									

	<p>アンケート回収数は40名であった。参加者は、60歳以上が90.0%であった。講座内容の〈分かり易さ〉について100.0%が「とても分かり易かった」「分かり易かった」と回答し、〈面白さ〉について、98.0%が「とても面白かった」「面白かった」と回答した。また、〈内容〉について、100.0%が「とても役立った」「役立った」と回答した。</p> <p>②文化に親しむ講座 全5回のアンケート回収総数は152名であった。参加者は、60歳以上が70.0%であった。講座内容の〈分かり易さ〉について92.0%が「とても分かり易かった」「分かり易かった」と回答し、〈面白さ〉について、95.0%が「とても面白かった」「面白かった」と回答した。また、〈内容〉について、93.0%が「とても役立った」「役立った」と回答した。</p> <p>学生の参加状況 活動内容： 人 数： 実人数（ 0 ）人 延人数（ 0 ）人</p>
<p>評価 改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度の本学との「公開講座」の共同開催を希望した4市町のうち、3市町と調整でき、公開講座を実施することができた。 ・一般公開講座は申込みが少なく、講座内容や開催時間の改善が必要である。 ・門川町では、町が行う健康づくり講座の1講座を本学との共同開催とした。町側との役割分担により、効率的・効果的に実施でき受講者評価も極めて良好であった。 ・宮崎県記紀編さん記念事業推進室や県立図書館と合同開催することで、県民への周知が図られ、受講生の満足度の高い講座を開催することができた。
<p>次年度 計画</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①「文化に親しむ講座」は、引き続き、県立図書館、宮崎県記紀編さん記念事業推進室との共催を継続し、宮崎市内で2回、宮崎市以外の地域で2回の公開講座を開催し広く宮崎県民へ寄与する。 ②県立看護大学を中心に、生活習慣予防等に重点をおいた健康づくり講座など一貫した内容の講座を実施する。 ③平成25年度に実施した、県内市町村の公開講座に関するニーズ調査の結果により、平成27年度以降に本学との共同開催を希望した市町村と調整を図りながら、県民ニーズに合った公開講座を計画する。
<p>記載 責任者</p>	<p>川原 瑞代</p>

1-1)-②

事業名	母親の育児力形成支援事業 ―親子で楽しく「輪ッハッハ!」教室―
対 象	未就学児の親子
事業組織	松本 憲子、壹岐 さより（宮崎県立看護大学） 他保健師1名・助産師1名・看護師1名・保育士2名
事業計画	<p>目的： 子ども、家庭及び地域社会の相互の連携を図ることにより、母親の育児不安等に関する早期対応を可能にし、地域社会における子育て支援の基盤づくりを目的とする。また、少子化で乳幼児との関わりの経験の少ない学生が、子どもたちと触れ合える場を提供し、乳幼児の発育発達及び、子育てについての理解を促す。</p> <p>実施内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子育て教室の開催（本学・日南） <ul style="list-style-type: none"> ・子育て相談(面接・24時間メール相談) ・児の発育発達評価・相談 ・ママの広場・遊びの広場 ・学生による健康教育 ●個別カウンセリング（輪ッハッハ!カフェ♪）の開催 ●母親学級の開催 ●宮崎市との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・支援の必要な母子の情報交換（ケース検討・継続支援）
実施状況及び結果	<p>子育て教室は、はがきによる募集により、約20組の親子を抽選で選び、6月より月2回開催し、合計 約600名の親子が参加した。</p> <p>育児力シートと唾液によるストレスチェックにより母親の育児力の全体を捉えた上で母親の育児上の悩みを知識、体験を通して解決することができた。</p> <p>保育士、助産師、看護師それぞれの専門性を活かした関わりにより、質の高い教室運営にすることができた。また、学生が実習の一環として行う健康教育や調理実習は、学生・母親双方にとって良いまなびの場となっている。</p> <p>今年度は、新たな取り組みとして、宮崎県立看護大学日南市街地活性化連携事業の一つとして、日南市での教室を開催し約10組の親子が参加した。ここでは、県立日南病院の協力を得て明らかとなった小児夜間救急の実態をもとに、参加者への健康教育をすることができた。</p> <p>プレママ教室は6月～9月までに8回開催し、約40名の妊婦の参加があった。参加者からは、「身体がポカポカして気持ちよかった」「食の大切さが分かった」などの声が聞かれた。特に「母乳の話」では「初めて聞いたことばかりで、出産前にイメージができた」という意見が多く好評であった。今後は、プレママ教室と育児教室の連携が課題である。</p> <p>育児力形成支援の研究的な取り組みとしては、小児の夜間救急の電話相談の実態把握として、県立日南病院の協力を得て、3か月間の電話相談の調査を行い、相談者の傾向や相談内容の特徴が明らかにした。また、育児力形成支援の基本となるデータとして、A市の1歳児を育てる母親の育児力の実態についてまとめた。</p> <p>学生の参加状況 活動内容：プログラムに参加 及び健康教育、調理実習 人 数： 実人数（ 24 ）人 延人数（ 30 ）人</p>

<p>評価 改善点</p>	<p>未就学児の親子を対象とした教室を月に2回開催し、母親の育児力向上と学生の教育の場となっている。参加者の母親からは、「このような子育て教室はどこにもない。子どもを相談し、解決する糸口をもらい、参加者の方々と子どもの成長を確認しながら、自分自身が元気を取り戻して帰れる場。」との声が聞かれた。</p> <p>今年度より開催したプレママ教室は、近隣の保健師の協力が得られ広報をスムーズに行うことができた。今後は参加妊婦の継続的な支援のあり方について検討をしていくことが必要である。</p> <p>小児の夜間救急の電話相談の実態調査により、子どもが病気になった時の初期対応や支援体制の周知をすすめていくことが必要であることが示唆された。</p>
<p>次年度 計画</p>	<p>プレママ教室と子育て教室の連携をはかりながら、教室運営を行っていく。また、小児夜間救急の実態調査の結果を日南市における子育て教室の内容に生かしていく。(2回/年開催) 母親の育児力向上のための調査を協力の得られた自治体で実施する。</p>
<p>記載 責任者</p>	<p>松本 憲子、壹岐 さより</p>

事業名	宮崎における子育て支援事業
対 象	宮崎県内の子育て中の子どもとその保護者
事業組織	宮崎県立看護大学の教員（家族看護学Ⅰを担当する教員を中心として） 片野坂 千鶴子 代表（NPO法人みやざき子ども文化センター） 甲斐 鈴恵 代表（民間団体：グッドトイみやざき）
事業計画	目的： 子育てに不安を感じることなく、楽しんで子育てができるよう、場（おもちゃ広場）を提供し、助言・支援を行い、そこに携わる専門職者（看護職者・保育士・おもちゃコンサルタントなど）相互の連携を深める。
	実施内容： 1. 大学内および県内各地において、大学所有のおもちゃを使って「おもちゃ広場」を開催し、子育て支援活動を行う。 2. NPO法人みやざき子ども文化センター江平イベントホールにおいて、常設のおもちゃ広場を開催し、月2回（第2・4火曜日）は大学の教員による子育て相談、年3回は講師を招き子育て講座を行う。 3. みやざき子ども文化センターが中心に行っている子育てネット（民間団体の情報交換の場）に参加し定期的に子育て支援検討会を行い、行政や民間団体が行っている子育て支援の実際を情報収集し、今求められている宮崎県内における子育て支援のあり方を考える。
実施状況及び結果	1. 大学では6月と9月の2回、計4日間のおもちゃ広場を開設し、子ども110名、大人100名の参加があった。子どもがおもちゃで夢中で遊ぶ姿から「子どもの喜ぶおもちゃがわかった」「子育ての悩みは自分だけじゃないとわかった」などの感想もあった。また、保護者向けに遊び方の講習会を行い、「遊び方の幅が広がった」「親が楽しいと思えることも大事だとわかった」などの感想もあった。おもちゃ広場と同時開催で、宮崎県産の木工キットを用いた箸づくり・手作りおもちゃづくりも行った。親子で作る楽しみや完成した作品を大切に育む様子がみられた。「移動おもちゃ広場」は、今年度は要請がなかった。今年度は、未就学児の親子のみでなく学童期も対象に活動を広げ、子育て相談、母親相互の情報交換の場などの子育て支援活動ができ好評であった。「もくもくパーク夏祭り(8月)」「あかえフェスティバル(8月)」「絵本の小径と夢みるおもちゃたち(10月)」などにも参加した。 2. きよたけ児童文化センターにおいて、常設のおもちゃ広場を開催し、週2回（火・金）は大学の教員による子育て相談を行った。毎回4～10組の親子、延べ863名の参加（1月末）があり、親子で遊びながら子育ての相談などの支援を行った。 3. みやざき子ども文化センターが中心に行っている子育てネット（民間団体の情報交換の場）に参加し、定期的に子育て支援検討会を行い、行政や民間団体が行っている子育て支援の実際を情報収集した。また、宮崎市が行っている子育て座談会に参加。7つの団体が一堂に会し、子育てに関する要望を市へ提言している。今求められている宮崎県内における子育て支援のあり方を考えるため、「未来みやざき応援フェスティバル2014」に企画から参加し、実行委員会からの要請で11月15日、16日はおもちゃ広場を開催し、約4,000名を超える親子が来場し、おもちゃ遊びを楽しんだ。 4. 子育て支援者の支援者フォローとして、おもちゃを用いた遊び方の講習会を行った。子ども文化施設や玩具店のスタッフ、教育関係者などの16名の参加があった。「子どもと接する時の参考になった」「固定観念にとらわれない遊び方を再確認できた」などの感想があった。他団体スタッフとの交流も行われ、今後の活動に繋がる支援となった。
	学生の参加状況 活動内容：おもちゃ広場での子どもの見守り・遊び支援、手作りコーナーの補助 人 数： 実人数（ 8 ）人 延人数（ 9 ）人

<p>評価 改善点</p>	<p>各市町村で子育て支援活動の催し物が開催されていることから、今年度は宮崎県内各地の「おもちゃ広場」の要望はなかった。今後、各地域から要望があれば実施する。看護大学内、宮崎市のおもちゃ広場の参加者からは、「育児をしている保護者の心の支えになるので、もっと多くの人に知らせたい」「今度はいつか」などとの意見が聞かれ、地域住民からのニーズが高いことが伺えた。より多くの方々が開催日時・場所の情報を得やすいように、広報活動として、大学ホームページの活用やチラシ配布場所の拡大、新聞の掲載などを行った。学童期が参加できる子育て支援のニーズも高いため、今後も継続して行っていく。</p> <p>活動内容のニーズが高く、今後も継続して行うために、実施する支援者のマンパワーの育成の必要性が望まれる。</p>
<p>次年度 計画</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学内、および県内各地において「おもちゃ広場」を開催し、木育活動も取り入れた子育て支援活動（乳幼児・学童）を行う。 2. きよたけ児童文化センターにおいて、常設のおもちゃ広場を開催し、週1回は大学の教員による子育て相談を行う。また、保護者対象、および、子育て支援者対象の研修会を行う。 3. みやざき子ども文化センターが中心に行っている子育てネット（民間団体の情報交換の場）に参加し、行政や民間団体と連携しながら、今求められている宮崎県内における子育て支援を実施する。
<p>記載 責任者</p>	<p>甲斐 鈴恵</p>

1-1)-④

事業名	宮崎県県南地区における精神障がい者への理解促進事業
対 象	宮崎県県南地区で精神障がい者の支え手となる方々
事業組織	川村 道子 (宮崎県立看護大学 講師) 小笠原 広実 (宮崎県立看護大学 准教授) 福浦 善友 (宮崎県立看護大学 助教) 赤星 誠 (宮崎県立看護大学 教授)
事業計画	<p>目的： 県南地区の精神障がい者の支え手となる方々を対象に、ニーズに見合った研修会を企画開催し、精神障がい者への理解促進を図る</p> <p>実施内容： 計画内容： 1. 平成 26 年 4 月～6 月 情報収集 ①学習会開催場所の選定（開催地で、民間の NPO 法人や地域の医療機関、保健師、住民の方々等と具体的打ち合わせ） ②研修会開催のためのプログラム作成 2. 平成 26 年 7 月～9 月 ①研修会開催 ②研修会開催後、精神障がい者の地域生活の支え手となる方々とのディスカッション 3. 平成 26 年 10 月～3 月 研修会開催の評価を行い、開催地区の民間の NPO 法人や地域の医療機関、保健師と今後の課題を検討</p>
実施状況及び結果	<p>県南地区の精神障がい者の支え手となる方の全体を把握している日南保健所の保健師から県南地区精神保健福祉の情報収集を行い、研修計画を立案、対象者のニーズに合致したプログラムを作成、3 回の研修会を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 回目は、「精神疾患の正しい理解と対応」のテーマで日南市役所職員対象に実施、31 名の参加であった。この研修会の評価と得られた課題をまとめ、「第 25 回 日本精神保健看護学会」で演題発表するためのエントリーを行った。 ・2 回目は、「精神疾患をどのようにみつめ、どのように支えていけばよいのか」のテーマで日南市社会、福祉協議会職員対象に実施、35 名の参加であった。 ・3 回目は、「メンタルヘルス」のテーマで日南市役所職員対象に実施、43 名の参加であった。 <p>学生の参加状況 活動内容： 人 数： 実人数 (0) 人 延人数 (0) 人</p>
評価改善点	当初計画では、本年度に研修会の開催を終える予定であったが、研修会開催が日南地区に集中した。情報収集を進めていく中で、日南地区より以南の地区での開催を企画する余地があるとの意見があがったため、さらに当該地区のキーパーソンとなる方との協議を進める必要がある。
次年度計画	串間地区での活動を計画し、年度前半に研修会の企画開催を行う。年度後半には、精神障がい者への理解促進に有効な研修会プログラムの開発というテーマで 2 年間の活動をまとめる予定。
記載責任者	川村 道子

1-1)-⑤

事業名	日南中心市街地活性化支援 一健康志向の人づくり・まちづくりへの支援一事業
対 象	地域一般住民
事業組織	宮崎県立看護大学教員（江藤、小野、長鶴、串間、川村、松本、小笠原、福浦） 日南市役所、日南まちづくり株式会社
事業計画	<p>目的：</p> <p>宮崎県日南市は高齢化率 31%と県平均を 5.2 ポイント上回る中、住民一人あたりの医療費は県下で最も高く、特定健診受診率も 37.2%と低いことから、健康に対する意識啓発が急務となっている状況にある。これらを背景に、日南市では、市庁、商工業、福祉分野が連携し「健康」をテーマとした中心市街地の活性化と健康意識の向上を一体化した事業を進めようとしている。日南市が抱えているこれらの問題はこれからの宮崎、日本が迎えるであろう問題を包括していると考えられ、健康志向のまちづくりの実現は、高齢化、過疎化の進む宮崎県において、地域住民の QOL の向上の視点から重要な課題である。</p> <p>そこで、我々は、日南市と協働して、日南油津地区に宮崎県立看護大学のサテライトを設置し、宮崎県立看護大学の持っている人的資源、研究成果等を活用した取り組みをモデル的に行う事業に取り組む。それにより地域の健康増進ばかりでなく、生活の充実、生きることの幸せ、多幸福感の形成から最終的には元気な町づくりや人づくりそして、地域のコミュニティづくりへと発展することを目指す。さらに、日南市をモデルとして取り組んだ支援過程の評価をとおして、他市町村へ適用可能な健康志向の人づくり・まちづくりの方法を見出すことを目的とする。平成 26 年度は、この取り組みの試行的実践期間と位置づけ、本年度は、地域住民の健康診断受診率の向上と元気度、幸福度の向上を到達目標に置く。</p>
	<p>実施内容：</p> <p>1) 月 2 回、宮崎県立看護大学のサテライトで本学教員および学生が下記のようなテーマで地域住民を対象に健康支援を行う。</p> <p>①健幸講演会②子育て・孫育て講座 ③高齢者の体力測定と介護予防健康運動 ④イキイキ音楽体操 ⑤思春期子育てセミナー⑥人権啓発セミナー</p> <p>2) 地域住民を対象に、健康診断受診率の向上等の健康指標、元気度、幸福度のアンケート調査を行い支援の評価を行うとともに、次年度に活かす課題を見出す。</p>
実施状況及び結果	<p>健幸講演会 18 回（江藤）、子育て・孫育て講座 2 回（長鶴）、高齢者の体力測定と介護予防健康運動 1 回（串間）、イキイキ音楽体操 1 回（川村・大村）、思春期子育てセミナー 1 回（松本）、人権啓発セミナー 1 回（小笠原・福浦）と計 24 回の「日南中心市街地活性化支援～健康志向の人づくり・まちづくりへの支援～」を目指した活動を展開し、地域住民の参加者は延べ 900 名に及んだ。</p>
	<p>学生の参加状況</p> <p>活動内容：健幸講演会を除くすべての講座において学生が事業に参加した。内容は教員のサポートや市民への直接的な指導など保健活動を実践した。</p> <p>人 数： 実人数（ 20 ）人 延人数（ 24 ）人</p>
評価改善点	<p>計 24 回にわたる日南市での活動で参加した市民が 900 名に及んだことは初年度とすれば評価できると考えられた。またアンケート自由記載には「元気が出た」「いつも楽しみにしています」「自分の価値がわかりました」などポジティブな意見も多く、この事業が日南市民にとって有益なものとなっていることが理解された。</p> <p>今後より参加者を増やし日南市全体の活性化を目指すうえで、年間スケジュールを詳細に決め、パンフレットを作成し配布することを日南市と協議した。</p>

<p>次年度 計画</p>	<p>前年度に引き続き健幸講演会をはじめとした「日南中心市街地活性化支援～健康志向の人づくり・まちづくりへの支援～」を目指した活動を展開する。今年度は町の保健師や地域医療関係者と連携を図り、健康相談を充実させるとともに学生相談ブースも検討する。また、前年度のアンケート結果や事業内容報告を核とした地域元気大会を開催し日南市民全体で地域の健康増進について考える場を設ける。</p>
<p>記載 責任者</p>	<p>江藤 敏治</p>

事業名	老いも若きも“はつらつ赤江”つながり隊
対 象	赤江地区住民
事業組織	川原 瑞代、小野 美奈子
事業計画	<p>目的：</p> <p>①本学学生や教員が赤江地域のまちづくりに参加し、大学の人的・物的資源を活かし地域との協働を図る。</p> <p>②高齢者が、自分の体の状態に気付くことができる機会や健康学習に参加できる機会を設け、健康的な生活について考え実践できるようにする。</p> <p>③高齢者同士や異世代間交流を通して、相互に刺激し合い、いきいきとした楽しみのある日常へつながる機会を増やす。</p> <p>④学生が地域のまちづくり活動に参加し、看護の学びを発展する。</p> <p>実施内容：</p> <p>①教員の赤江地域まちづくり推進委員会への参加（健康・福祉部に所属）</p> <p>②教員・学生有志・住民との話し合いで住民ニーズに合った事業の企画</p> <p>③夏期休暇や講義の空き時間、休日等を利用し②の事業の実施</p> <p>④継続した活動につながるよう評価、次年度の検討</p>
実施状況及び結果	<p>計画①：教員1名（甲斐鈴恵）が、赤江地域まちづくり推進委員会健康・福祉部に所属した。委員会へ出席し、情報交換等を行った。</p> <p>計画②：“イキイキ健康茶屋”は「身近な場所、利用しやすい時間帯での健康教室の実施や日ごろの健康チェックの機会、高齢者同士や異世代との交流」として、リピーターも増えるなど地域住民に周知され、赤江地域まちづくり推進委員会でも定例事業として推進している。本年も高齢者の介護予防事業等実績・関心のある教員、学生らの協働で“イキイキ健康茶屋”を企画した。</p> <p>計画③：平成26年9月17日（水）の午前・午後に“イキイキ健康茶屋”を実施した。内容は、健康チェック（血圧・身長・体重・体組成・握力・長座位立ち上がり・開眼片足立ち・骨密度・捻り力）、学生によるミニ健康講座、医師による健康相談、健康講話〈運動の講義と実技〉（担当：串間敦郎）、地域包括支援センターによる生活機能評価、脳年齢チェック等であり75名の住民参加があった。</p> <p>*スタッフ〈教員〉串間敦郎、小野美奈子、中村千穂子、田多良佳代、高橋秀治、井上理恵子、福浦善友、谷口敬子、尾井貴子、勝野絵梨奈、甲斐鈴恵、川原瑞代 〈センター〉重富志帆、船蔵ひとみ、杉田加代子</p> <p>計画④：参加者アンケート（57名回答）によると、講座後の感想は、「非常に満足」（77.2%）、「まあまあ満足」（15.8%）であり、参加者にとって概ね満足できる内容であったと評価した。ためになった内容〈複数回答〉は、「体力測定」（86.0%）、「講義と実技」（65.0%）、「学生によるミニ健康講座」（52.6%）、であり「体力測定が充実していた」など好評であった。「自分の体力を知るのにとってもよかった」「来年も来れるよう努力したい」など体の状態への気付きや健康的な生活について考え実践できるような機会の提供ができたと評価した。「学生のやさしい対応で満足」など学生がスタッフとして参加したことに好意的な意見が多く、世代間交流も図られた。</p> <p>学生の参加状況</p> <p>活動内容：体力測定の実施・補助。ミニ健康講座の実施</p> <p>人 数： 実人数（ 5 ）人 延人数（ 5 ）人</p>

<p>評価 改善点</p>	<p>前年度 47 名の参加であったが、本年度は 75 名と増加した。広報方法は前年同様であったが、自分の体の状態に気付き、健康学習に参加できる機会として、地域で認知されてきたことに加え、リピーター、仲間同士や夫婦での参加が増えたことが要因として考えられる。参加者増に対し、器具やスタッフを増やし、スケジュールを調整するなどして対応したが、安全面や参加満足度からは 1 日 50-60 名程度が妥当であると考え。今後、運営方法の検討が必要である。</p> <p>地域のニーズに合った事業であり、高齢者同士や学生の参加による異世代間交流も図られ、相互により刺激となっている。学生の参加も積極的に図りながら今後も継続していく。</p>
<p>次年度 計画</p>	<p>①地域まちづくり推進委員会に所属し、地域のニーズ把握や情報交換を行う。 ②引続き内容の充実、改善を図りながら地域まちづくり推進委員会と協働して“イキイキ健康茶屋”を開催する。(9月中旬実施予定)</p>
<p>記載 責任者</p>	<p>川原 瑞代</p>

事業名	高齢者のための介護予防運動活動の支援
対 象	介護予防運動教室の指導者と宮崎市内の一般高齢者
事業組織	宮崎県立看護大学（串間 敦郎、中村 千穂子、高尾 千賀子、川越 竜一、原村 幸代） と宮崎市長寿支援課
事業計画	目的： 高齢者のための介護予防運動活動の支援
	実施内容： 宮崎市健康運動教室の指導員のフォローアップを行った。また「宮崎いきいき健幸体操」を一般市民と事業所へ向けの研修会を実施し普及を推進した。
実施状況 及び結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本学教員（串間、高尾、川越、原村）が、施設や事業所職員等の専門職向けの「宮崎いきいき健幸体操」の専門研修会を2日間にわたり実施し、40名の参加があった。 ・ 長寿支援課職員が一般市民向けに「宮崎いきいき健幸体操」の研修会各2日間を9回実施した。（参加者合計145名） ・ 本学教員（串間）が、宮崎市介護予防運動教室指導員に対し活動支援のためのフォローアップ研修会を行った。題目「高齢者の特性を踏まえた運動指導と自主活動への移行」 ・ 宮崎ケーブルテレビと共同で、体操啓発と市民の身体機能の維持向上のために市民向けの実践番組を作成し、毎日定期的に放送した。
	学生の参加状況 活動内容： 人 数： 実人数（ 0 ）人 延人数（ 0 ）人
評価 改善点	昨年度と同様の事業を、今年度も継続的に実施した。運動教室指導員向けのパンフは、低体力者向けの運動が少ないということで、昨年度転倒予防運動について椅子に座ってできる低体力者向けの運動テキストを作成したが、今年度はよりわかりやすいように改訂し、説明・指導を行ったところ好評であった。専門研修会においても同様のテキストを使用した。今後も宮崎市の担当者と連携をとり、各方面への支援を行っていきたい。
次年度 計画	今年度と同様に、一般市民向けと専門職向けの研修会を改善しながら充実させていきたい。
記載 責任者	串間 敦郎

1-2)-①

事業名	看護職者のための看護力再開発講習会（看護技術演習コース）
対 象	未就業の看護職者
事業組織	宮崎県立看護大学 宮崎県看護協会ナースセンター 協働開催 宮崎県立看護大学 栗原 保子、毛利 聖子、勝野 絵梨奈、坂井 謙次、日高 真美子、武田 千穂
事業計画	<p>目的： 再就業を希望する未就業看護職者に対して、自己の潜在能力を高められるよう看護技術講習会を企画・実施し、再就業を支援する。本事業は、宮崎県看護協会との合同企画である。看護職能団体との連携の強化を図ることで、県内の看護の質の向上に貢献する。</p> <p>実施内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護力再開発講習会（看護技術演習コース）の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・午前中は、講義および演習形式で行い、午後よりモジュール方式による看護方法実習書やビデオ教材等を使用して自主学習を行う。プログラム内容は別添資料に示す。 2. 講習会プログラムの検討 <ul style="list-style-type: none"> ・講習時の受講者の反応や感想等についてアンケートを実施しプログラム内容の検討を行う。 3. 再就業の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・受講者の経験・離職年数等を把握し、希望する就職先とのマッチングを行う。 ・講習会終了3ヵ月及び6ヵ月後に、就業状況調査を行う。 4. 報告書作成
実施状況及び結果	<p>「看護力再開発講習会-看護技術演習コース-」を、プログラムに即し5日間集中型で開催した。前年度と同様、単元別選択制にして、受講者の方が再就業を目指そうとする領域に必要な演習項目が選択できるように取組んだ。定員30名に対し、受講希望者は実人員24名であった。講義コースに引き続き受講した研修生は15名であった。技術演習の全単元を受講した研修生は11名であった。受講終了後の演習についての理解度、目標達成、満足度に関する調査において、どの単元においてもわかりやすかった、実践に役立つ内容だった、等肯定的評価であり、満足度が高いことがわかった。また、受講3ヶ月後の就業状況調査では、未就業者33名（講義コース参加者も含む）中、18名が再就業しており、約6割の達成率であった。再就業先としては、半数が病院・診療所に就業しており、その他は住宅型有料老人ホームなどの高齢者施設、障害者支援施設、市町村の健診、看護師養成学校の実習指導者などであった。看護力再開発講習会は、講義コース、本コースの後に、これらのコースで得た専門知識や技術をより深めるために、実習講習という実地訓練の場も開催している。前年度と同様、技術演習コース受講後間もなく実習を組みいれているため、実践に結びつきやすかったと好評であった。現在（2月）、再就業を希望しているにも関わらず就業に至っていないケースについては、今後も宮崎県ナースセンターが窓口となって、就業相談及び情報提供等を引き続き行い受講者への支援活動を実施していく。</p> <p>平成26年度看護力再開発事業報告書を作成した。</p>
	<p>学生の参加状況</p> <p>活動内容：</p> <p>人 数： 実人数（ 0 ）人 延人数（ 0 ）人</p>

<p>評価 改善点</p>	<p>評価： 事業結果より、再就業を希望しながらも不安を抱えて就業に踏み切れない看護職者の就業支援として本事業を継続して行なうことは意義がある。単元毎の選択制導入は、受講生にとっては自由度があり好評のため引き続き実施する。</p> <p>改善点： 学修環境の整備も含め、演習支援体制を整える。</p>
<p>次年度 計画</p>	<p>看護力再開発講習会-技術演習コース-を継続して実施する。実施方法は5日間集中コース（単元別選択制）とする。</p>
<p>記載 責任者</p>	<p>栗原 保子</p>

平成 26 年度 看護力再開発講習会 技術演習コース プログラム

【宮崎県立看護大学・宮崎県看護協会協働事業】

(敬称略)

日時/会場	9:00	12:00	13:00	15:30
9月8日 (月) 宮崎県立看護大学 臨床実習室 I 定員 30 名	ガイダンス	検査と看護(採血法) 診断・治療過程における検査の意義と看護の役割を再認識する。本単元では、「採血」技術を修得する。 宮崎県立看護大学 教員 坂井謙次 学内支援者 3名	休憩	自主学習 モジュール実習書、ビデオ教材、モデル人形等を用いて各自の目的に応じて演習を行う。 学内支援者 3名
9月9日 (火) 宮崎県立看護大学 臨床実習室 I 定員 30 名	与薬と看護(注射法) 治療に伴う看護技術のうち、身体に直接影響を及ぼす与薬について理解を深める。本単元では、「注射」技術を修得する。 古賀訪問看護ステーションあおぞら 看護師 中角吉伸 学内支援者 2名	休憩	自主学習 モジュール実習書、ビデオ教材、モデル人形等を用いて各自の目的に応じて演習を行う 学内支援者 3名	
9月10日 (水) 宮崎県立看護大学 臨床実習室 I 定員 30 名	感染予防策の実際(感染防御) 感染の知識を深め、正しい感染予防の実際を学ぶ。本単元では、「手洗い」等、感染予防に必要な基本技術を修得する。 宮崎市郡医師会病院 感染管理認定看護師 篠原真理子 学内支援者 2名	休憩	誤嚥性肺炎を予防するための 口腔ケアと吸引 「口腔ケア」が発熱や肺炎の予防といった全身の健康維持にも関連することを理解し、口腔ケアの方法、吸引の手技について修得する。 宮崎県立看護大学 准教授 高尾智香子 学内支援者 2名	
9月11日 (木) 宮崎県立看護大学 臨床実習室 I・II 定員 30 名	急変時の看護 (急変時のフィジカルアセスメント・救急蘇生) 身体機能面から見た急変時フィジカルアセスメントのとらえ方としてエビデンスに基づいた呼吸器・循環器の理解と対処の仕方を学び、最新のガイドラインに基づく心肺蘇生の基本を修得する。 宮崎市郡医師会病院 救急看護認定看護師 鶴野和代 学内支援者 3名	休憩	自主学習 モジュール実習書、ビデオ教材、モデル人形等を用いて各自の目的に応じて演習を行う。 学内支援者 3名	
9月12日 (金) 宮崎県立看護大学 臨床実習室 I 定員 30 名	移動の動作の援助 看護の対象者、看護者双方の安全、安楽を守るために必要なボディメカニクスを確認し、移動動作の援助を中心とした基本技術を修得する。 宮崎県立看護大学 教員 坂井謙次 学内支援者 2名	休憩	自主学習 モジュール実習書、ビデオ教材、モデル人形等を用いて各自の目的に応じて演習を行う。 学内支援者 2名	

註；ガイダンス担当 栗原 保子

ガイダンスの内容；本講習会の意義と目的を説明し、「看護技術とは」について再考できるよう、教材を活用して講義を行う。また、講習会の指導体制、演習支援内容について説明する。

事業名	宮崎県内の医療機関に勤務する看護職者の看護実践能力向上のための実践・研究支援（地域看護職等連携事業）
対 象	宮崎県内の医療機関に勤務する看護職者
事業組織	阿部 恵子（宮崎県立看護大学 教授）、山岸 仁美（宮崎県立看護大学 教授） 寺島 久美（宮崎県立看護大学 教授）、新田 なつ子（宮崎県立看護大学 教授） 小笠原 広実（宮崎県立看護大学 准教授）、沼口 文枝（宮崎県立看護大学 准教授） 川村 道子（宮崎県立看護大学 講師）、毛利 聖子（宮崎県立看護大学 講師） 山岡 深雪（宮崎県立看護大学 講師） 宮崎県内の医療機関
事業計画	<p>目的： 本事業の目的は、県内の医療機関に勤務する看護職者と教員とが共同・連携し、組織的な事例検討をとおした看護実践の成果を研究としてまとめ、広くその成果を普及させ、県内の臨床現場に還元して県内の看護職者の看護実践能力をめざすことである。</p> <p>実施内容： 1) ナイチンゲール看護論に基づいて事例検討を共同で行なうことを施設に呼びかけ、共に事例検討会の計画を立案し、会に参加して事例検討を推進する。 2) 各医療機関の事例検討運営担当（看護者）と教員とが会議をもち、実施した事例検討会を評価し、次回につなげて、事例検討会を継続開催する。 3) 事例検討会の成果をふまえて、すぐれた実践について院内で共有する。 4) 事例検討会の評価をふまえて、各組織において良い実践を選出し、それを研究的にまとめる取り組みを行う。</p>
実施状況及び結果	<p>前年度に引き続き事例検討会を開催した施設は7施設であった。それぞれ県立宮崎病院-6回、県立延岡病院-1回、県立日南病院-3回、善仁会・市民の森病院-5回、都城市郡医師会-3回、井上病院-2回、野崎病院-8回開催し、延べ850名程度の看護職者が参加した。事例検討会を継続することを支援して、そこで学んだ結果を病棟看護につなげ、看護実践の変化を実感する病棟が増えた。また、病棟から出された事例を外来につなげ、病院全体で支えたケースがあった。それを、施設のまとめの会で発表し、部署を超えて討議することができた。</p> <p>また、事例検討会での学びをまとめて研究発表に取り組んだ施設は4施設であった。研究をまとめるにあたり、中心となった看護師が少人数で集まって、発表に向かっての話し合いを重ね、本学教員が参加してサポートをおこなった。</p> <p>その結果、日本看護学会に4演題が採択され、そのうち2演題の発表者の旅費交通費・学会参加費を支援した（他の2施設は、施設側からの支援を受けて発表した）。日本看護学会（看護管理）では2施設が事例検討を行って看護実践の変化や、事例検討を継続して行く中で検討事例の質がどのように変化してきたかをまとめた。また、同学会（精神看護）に2施設が良い実践につながった事例検討の成果を発表することができた。研究発表に携わった看護職者は、その過程で、研究のまとめ方や倫理審査を受ける大切さ学んだと語った。他者と実践を共有することによって、自分たちの日々行っている看護の意味を認識できると、自信につながったと語った。事例検討行った成果を研究発表できた病棟では、看護が活性化したと反応があった。また、学会発表のプレ発表会に参加した医師から、取り組んでいたことが良く伝わるプレゼンテーションになっており、このような事例の見つめ方を他の病棟でもやらなければと評価された施設があった。旅費や参加費の支援があったことで動機づけにつながった施設もあった。以上より、事例検討を継続することによって、実践が変化し、その実践を研究としてまとめて発表できたことで、さらに達成感が得られていた。なお、成果報告については、個人情報保護の観点から検討過程の詳細を公表できないため効果的ではないということで、印刷物は配布せず、各施設ごとに振り返りや、全体のまとめの会を行って、継続事例の看護の取り組みの成果を発表して共有することができた。</p>

	<p>学生の参加状況</p> <p>活動内容：</p> <p>人 数： 実人数（ 0 ）人 延人数（ 0 ）人</p>
<p>評価 改善点</p>	<p>事例検討会を継続できるように支援することは、病院組織の看護実践能力の向上につながっていった。さらに、事例検討の成果を研究としてまとめるまでを支援することで、全国レベルの学会で発表する施設が増え、研究活動が活性化された。事例検討から研究としてまとめるまでをひとつながりと考える施設が増えた。改善点としては、研究グループは少人数で勤務終了後に集まることが多く、時間的に負担になるため、計画的に進め勤務の中で時間が確保されることが望まれる。今後、実践知を研究としてまとめるプロセスを支援し、結果を病棟看護に還元できるような体制づくりをつくりあげていくことが必要である。</p>
<p>次年度 計画</p>	<p>本事業は終了。</p>
<p>記載 責任者</p>	<p>新田 なつ子</p>

事業名	宮崎県内の急性期医療に携わる看護職者の看護実践力向上のための支援
対 象	宮崎県内の急性期医療に携わる看護職者
事業組織	宮崎県立看護大学：寺島 久美、沼口 文枝、山岡 深雪、井上 理恵子、谷口 敦子、 黒木 瞳、邊木園 幸、河野 美恵子 宮崎県内の急性期医療機関の看護職者
事業計画	目的： 宮崎県内の急性期看護実践・教育に携わる看護職者が、ナイチンゲール看護論を基盤として急性期看護に係わる最新かつ高度な専門知識・技術を学び合い、具体的な事例検討をとおして看護問題解決のための方略を探って実践に生かし、かつそれらの成果を拡張させて県内の急性期医療を必要とする患者・家族の療養過程を支援し、宮崎県の急性期看護の質の向上に寄与する。 実施内容： 1. 急性期看護セミナー 平成 26 年 11 月 8 日 13 時～16 時 テーマ：急性期看護領域における家族看護～具体的な実践事例から学ぶ～ 2. 急性期看護事例検討・学習会 第 1 回：平成 26 年 10 月 25 日（土）13:00～16:00 第 2 回：平成 26 年 1 月 24 日（土）13:00～16:00
実施状況及び結果	1. 急性期看護セミナー 40 名（看護職 29 名、学生 11 名）が参加。 昨年度に引き続き家族看護支援専門看護師を講師として、具体的な実践事例を通して学べるように企画した。講師の豊富な実践例を交えた講演を聞いて「家族看護の視点を共に働くスタッフに還元していきたい」「短時間での家族との関わり、時間を有効に使えるように学びを活かしていきたい」「具体例が多く状況を描きやすく理解しやすかった」、等、家族看護の視点を学び、今後の看護実践やチームに還元したいという意欲に繋がっていた。 2. 急性期看護事例検討・学習会 第 1 回目、第 2 回目とも参加者は 12 名（看護職者）であった。重度の呼吸器障害をもち、急性期医療を受けて在宅療養への移行に困難を生じていた高齢の事例と、自殺企図をはかった成人期の事例について看護理論を適用して事例検討を行った。終了後の感想カードより、急性期の場においても対象の持てる力に目を向け、全人的視点で看護を実践していく必要性を実感した感想が多かった。 学生の参加状況 活動内容：急性期看護セミナーへの参加（聴講） 人 数： 実人数（ 11 ）人 延人数（ 11 ）人
評価改善点	急性期看護セミナーは、アンケート結果から 9 割以上の方が概ね理解でき満足した（回収率 85%）と回答していた。講師との日程調整がとれず、開催は 11 月期の 1 回とした。事例検討学習会は、参加人数が少ないものの、出席者の感想カードより実践につながるよい気づきが生まれていることを確認できた。また、今年度は継続参加者もいたが日程調整が困難で 1 回は開催を見送った。急性期看護における全人的な看護の視点の重要性が若干でも共有でき、看護実践につながっていったのではないかと考える。
次年度計画	次年度の計画はなし。
記載責任者	寺島 久美

事業名	感染管理スキルアップ研修事業
対 象	県内の看護師
事業組織	宮崎県立看護大学 栗原 保子、小野 美奈子、邊木園 幸、武田 千穂、勝野 絵梨奈、田多良 佳代
事業計画	<p>目的：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全な医療を提供するために感染管理の質の向上と、感染管理に関するより専門的な知識及び技術を修得し、チームリーダーとして自施設の医療関連感染の予防と管理に貢献できる人材を育成する。 2. 感染管理における看護師リーダー育成のための教育プログラムの開発を行う。 <p>実施内容：</p> <p>(A) 感染管理スキルアップ研修会、(B) 感染管理スキルアップ研修<出前講座>の実施。</p> <p>(A) 感染管理スキルアップ研修会 目的：①県内の医療機関に所属する看護職者の感染管理に対する意識を高め、実践型教育を通して看護実践能力の向上を図る。②所属機関においてリーダーシップを発揮しながら感染対策への改善を図る。 実施計画 ①感染管理スキルアップ研修会【実施要領】に基づき実施。②研修評価（*調査にあたっては事前に宮崎県立看護大学研究倫理委員会へ申請し承認を得る。）③報告書作成。 ④研修報告とあわせ、社会化（学会発表等）に取り組む。</p> <p>(B) 感染管理スキルアップ研修<出前講座> 目的：①ある地域の医療施設における院内感染対策担当者を対象に、体験型研修（院内ラウンド実施）を導入・実施し、感染対策への改善を図る。②保健所との協働開催により、看護職及び多職種による県内感染管理ネットワークの構築に向けた整備を進める。 実施計画 ①感染管理スキルアップ研修<出前講座>【実施要領】に基づき実施。 ②医療機関からのニーズに応じ対応する（大学 HP 等を活用した広報活動の実施）。 ③研修評価（*調査にあたっては事前に宮崎県立看護大学研究倫理委員会へ申請し承認を得る。）④研修報告とあわせ、社会化（学会発表等）に取り組む。</p>
実施状況及び結果	<p>(A) 感染管理スキルアップ研修会 看護師リーダー育成のためのスキルアップ研修会（平成 26 年 6 月～12 月）を開催した。応募者が多数となり 31 名で実施した（募集定員 20 名）。研修終了後の自記式質問調査（5 段階尺度及び自由記述）結果では、感染対策に関する必要性、理解度、活用度すべてにおいて高得点を示した。実践的研修プログラムとして評価でき、感染対策のスキルアップに繋がっている。また、自由記述内容の分析からも、自施設における<役割モデル>としての意識が強化されているという結果を得た。最終報告書を提出した 29 名に対し本学発行の修了書を授与した。</p> <p>(B) 感染管理スキルアップ研修<出前講座> 感染管理スキルアップ出前事業に関しては、延岡保健所との協働開催で延岡市医師会病院で実施した。院内ラウンドを取り入れた実践的内容を含む研修プログラム（2 日間）を計画し実施した。研修には保健所管内の 28 医療機関（有床診療所を含む）から 28 名が参加し、2 日目の院内ラウンド研修には、19 施設 19 名が参加した。研修終了後の調査では、すべての医療施設から、自施設の感染対策に向けて役に立つ内容（情報）であったとの評価を受けた。県北の感染管理ネットワーク整備・構築に向けた一助になっていることがわかった。</p>

	<p>以上の成果を踏まえ、<u>平成 26 年度感染管理スキルアップ研修事業報告書を作成した。</u></p> <p>また、研修の成果を、第 45 回日本看護学会-看護管理-学術集会（平成 26 年 9 月：宮崎県開催）、第 30 回日本環境感染学会学術集会（平成 27 年 2 月 神戸市）で報告した。論文として、1) 感染対策における〈院内ラウンド〉を取り入れた出前方式体験型研修プログラムの意義（第 45 回日本看護学会-看護管理-論文集）、2) 地域における看護職者のための感染対策教育プログラムの検討―感染管理基礎講習会を受講した看護職者の感染対策に対する意識調査より― 研究報告（宮崎県立看護大学看護研究・研修センター年報第 3 号）等、社会化を行った。</p>
	<p>学生の参加状況 *なし</p> <p>活動内容：</p> <p>人 数： 実人数（ 0 ）人 延人数（ 0 ）人</p>
<p>評価 改善点</p>	<p>評価 事業目的に即した成果をあげているといえる。</p> <p>改善点 教育プログラムの内容については、研修評価をもとに、一部の単元内容の変更と実技演習をより積極的に導入することとした。また、最終報告書（課題）の提出内容については、各受講生が研修で取組んだ具体的成果を表現できるように、どのように支援体制を整えるかが課題であることがわかったので、その点を、次年度計画に活かしていくこととする。</p>
<p>次年度 計画</p>	<p>継続 (A) 感染管理スキルアップ研修会の実施 (B) 感染管理スキルアップ研修〈出前講座〉の実施</p> <p>新規 (C) 感染管理フォローアップ研修会の企画と実施 ①感染管理認定看護師資格取得に向けた学修支援を行う。 ②感染管理認定看護師資格取得後のスキルアップを目指した学修支援を行う。</p>
<p>記載 責任者</p>	<p>栗原 保子</p>

1-2)-⑤

事業名	看護研究支援・講師派遣事業
対 象	県内看護職
事業組織	宮崎県立看護大学看護研究・研修センター
事業計画	目的： 地域における現任看護職者の看護（研究）の質の向上のために教員を派遣し研究を支援する。
	実施内容： 1) 研究支援の要請があった場合は、教員の中から人選して派遣する。 2) 研究支援に関する活動実績及び課題を年度末に把握する。 3) 地域貢献等研究推進事業の2事業を通して研究支援を行っていく。
実施状況 及び結果	平成26年度の学外調査によると12団体及び8人の個人に対して、11名の教員による73回の研究支援実績があった。地域貢献等研究推進事業「宮崎県内の医療機関に勤務する看護職者の看護実践能力向上のための実践・研究支援」においては、4施設への研究支援が行われ、4演題が学会発表を行った。
	学生の参加状況 活動内容： 人 数： 実人数（ 0 ）人 延人数（ 0 ）人
評価 改善点	新規の研究支援依頼はなかった。研究支援実績は、平成25年度の実績（13団体に対して7名の教員による38回の研究支援）と比較して、大幅に増加した。研究支援により、現場の看護職者が学会発表まで行うことも可能となり、地域における現任看護職者の研究の質に貢献できていると評価できた。
次年度 計画	1) 研究支援の要請があった場合は、教員の中から人選して派遣する。 2) 研究支援に関する活動実績及び課題を年度末に把握する。
記載 責任者	小野 美奈子

1-2)-⑥

事業名	研修会講師派遣事業
対 象	県内看護職
事業組織	宮崎県立看護大学看護研究・研修センター、宮崎県看護協会他
事業計画	目的： 看護協会などと協働して看護職者等を対象とした教育研究活動を支援するために教員を派遣する。
	実施内容： 1) 講師派遣要請があった場合は、テーマにそって教員を人選して派遣する。 2) 派遣実績を記録していく。 3) 学外講義に関する活動実績を年度末に把握する。
実施状況 及び結果	1) センターを通じた新規の講師派遣の要請はなかった。 2) 本学教員の研修会講師の実績については、3月に行った地域貢献に関する教員の学外活動調査にて把握した。看護職者を対象とした講師派遣要請は年々多くなっており、平成26年度は延べ143人の教員が563.5時間の研修会講師を担当した。また研修会等でファシリテータや助言者など、延べ114名の教員が1457.5時間講師以外の活動を行っていた。
	学生の参加状況 活動内容： 人 数： 実人数（ 0 ）人 延人数（ 0 ）人
評価 改善点	平成25年度の実績（149人の教員による363.5時間の研修会講師、106人の教員による578時間の講師以外の活動）と比較して、活動時間が大幅に増加した。地域のニーズに細やかに対応できていると評価できた。
次年度 計画	1) 講師派遣要請があった場合は、テーマにそって教員を人選して派遣する。 2) 派遣実績を記録していく。 3) 学外講義に関する活動実績を年度末に把握する。
記載 責任者	小野 美奈子

事業名	県内の助産師のネットワーク作りとキャリアアップをはかる事業
対 象	県内で就業している助産師
事業組織	宮崎県立看護大学 菅沼 ひろ子、橋口 奈穂美 宮崎県助産師会 上原 えり子、森 伴子、田中 優子、水畑 喜代子
事業計画	目的： 助産師活動の連携や相互の浸透を図る助産師のネットワーク作りと、助産師活動をさらに活性化することを目的として研修会・研究会を開催する。宮崎県助産師会と協働で企画運営し、県内助産師の助産活動の質の向上に貢献する。
	実施内容： 第1回：6月28日(土)13:00～16:10 予期しない妊娠をした女性への支援について 福岡市こども総合相談センター所長 藤林武史 第2回：7月26日(土)13:00～16:10 周産期における医療安全について 公益社団法人日本助産師会 専務理事 葛西圭子 第3回：11月29日(土)13:00～16:10 助産力の向上を目指して めぐみ助産院 助産師 岩田塔子 第4回：2月11日(水)13:00～16:10 助産実践から研究へ 宮崎県立看護大学 教授 菅沼ひろ子
実施状況 及び結果	第1回「予期しない妊娠をした女性への支援」には45名の参加。第2回「周産期における医療安全」に35名参加。第3回「助産力の向上を目指して『妊娠中の骨盤ケア・赤ちゃん体操～東洋医学的な見地から安産・快適育児へのアプローチ』」に67名の参加。第4回「助産実践から研究へ 助産の実践から生まれた疑問と研究への取り組み」に23名の参加があった。ネットワーク作りのために、同施設の助産師が重ならないようグループメンバーの構成を図った。ロールプレイでは、グループメンバーの年齢構成・活動場に応じて企画委員をファシリテーターとして配置した。研修への意見等アンケート回収率は90～94%であった。「グループワークをすることで自分の課題がわかった」「最新の情報を知ることができ学べた。専門職者として根拠をもって実践できる力をつけるために自己研鑽を忘れてはいけないと思った」など毎回8割以上が今後の活動に役立つと答えていた。また、「他の施設の仕組みや状況など聞くことができ情報交換の場となりました」「ベテラン助産師さんから色々な事を教えていただきとても勉強になった。…このような交流があるといい」など横のつながりがうかがえ、7割が助産師同志の横のつながりに役だっていると答えている。
	学生の参加状況 活動内容：会場の設営及び片づけのボランティア及び、自己学習として参加。 人 数： 実人数（ 8 ）人 延人数（ 8 ）人
評価 改善点	アンケートの結果から、参加者は概ね内容に満足していた。開催日が他の研修と重なったり近かったりして、第4回は祭日に研修会を組んだ。次年度は他研修会等を考慮して、日程調整を行なう。事例検討に関する研修会の参加者が少ないことが昨年度の課題であった。本年度も、第4回が事例検討に位置づくもので参加人数が少なかったが、参加者にとっては自身の活動に役立つ内容と殆どから評価をもらい、事例を扱う研修会は今後も継続して取り組んでいきたい。
次年度 計画	本事業は継続とし、4回の研修会を企画予定。1つは分娩を取り扱う施設助産師を主に、1つは地域で子育て・女性支援を行っている助産師を主とした内容、他2つはどのような活動の場であっても助産師に必要な知識・技術内容としている。また全研修会にグループワークを組み、引き続き参加者の交流及び学びが深まるようにはかる。
記載 責任者	橋口 奈穂美

事業名	保健師の力育成事業
対 象	県内保健師
事業組織	<p>宮崎県立看護大学：小野 美奈子、川原 瑞代、田多良 佳代 宮崎県保健所保健師：木添 茂子・後藤 由佳（日南保健所）、今村 三千代（都城保健所） 日高 美加子・阿波野 恵（小林保健所）、榎田 恵美（高鍋保健所） 銚之原 純子（日向保健所）、田中 美幸（延岡保健所） 宮崎県看護協会保健師職能委員：濱田 京子（都城保健所） 宮崎県医療薬務課看護担当：坂本 三智代、丹波 京子 宮崎県内市町村保健師：成地 芙美（延岡市） 退職保健師：山内 裕子（宮崎県後期高齢者広域連合）</p>
事業計画	<p>目的： 1. 県内の保健師の現任教育による実践力向上を目指し、県民の健康の維持向上と健康的な地域社会の創造に寄与できる保健師活動を支援していく。 2. 平成 25 年度作成の保健師現任教育マニュアル及び研修プログラムの検証を行う。</p> <p>実施内容： 1) 宮崎県保健師現任教育推進委員会を組織し、以下の活動を行う。 ①新任保健師研修Ⅰ（7月～2月に6回：小林保健所）、新任保健師研修Ⅱ（8月～2月に4回：日向保健所）、中堅保健師研修Ⅰ（8月～2月に8回：日南保健所）、中堅保健師研修Ⅱ（9月～2月に4回：日南保健所）、リーダー保健師研修（7月～3月に5回：宮崎県立看護大学）の企画・実施・評価 *上記集合研修以外にアクションプラン等への個別指導を行う ②コンサルタント登録及び派遣 ③現任教育自主グループ活動支援 ④現任教育マニュアルの評価・改善 ⑤宮崎県保健師現任教育推進体制の評価・改善 ⑥学会報告等 ⑦その他 2) 1) の取組み評価</p>
実施状況及び結果	<p>1) 宮崎県保健師現任教育推進委員会を組織した。（委員：医療薬務課看護担当、看護大学教員、保健所保健師、市町村保健師、県看護協会保健師職能、ほか） ①新任保健師研修Ⅰ（7/25.9/1.10/3.11/28.12/9.2/2、担当：小林保健所、受講生14名） 新任保健師研修Ⅱ（8/1.9/5.12/5.2/6、担当：日向保健所、受講生16名） 中堅保健師研修Ⅰ（8/11.9/12.9/27.10/31.11/13.2/2.2/26、担当：日南保健所、受講生11名） 中堅保健師研修Ⅱ（9/12.11/13.12/2.2/26、担当：日南保健所、受講生1名） リーダー保健師研修（7/26.8/19.11/11.2/6.3/3、担当：宮崎県立看護大学、受講生6名）の企画・実施・評価 ②退職保健師に対しコンサルタント登録を依頼し、3名が登録した。また、現任教育推進委員もコンサルタントとして関わった。コンサルタントは各研修会での助言や受講生への個別指導を担った。 ③新任期保健師の自主グループ“保健師カフェ”（11/29実施）の運営相談などのサポートを行った。 ④各研修担当者、組織が事業評価を行い、宮崎県保健師現任教育推進委員会で情報を共有し現任教育マニュアルの改善に向けた検討を行った。 ⑤宮崎県保健師現任教育推進委員会を開催（5/30.8/27.11/26.3/19）し、体制の評価を行った。</p>

<p>実施状況及び結果</p>	<p>⑥第 45 回日本看護学会-ヘルスプロモーション-学術集会（8/28.29）で、中堅保健師研修Ⅰ修了生（都城市：田中千恵）、第 3 回日本公衆衛生看護学会（1/10.11）でリーダー保健師研修修了生（美郷町：沖田世理子）、及び宮崎県保健師現任教育推進委員（小野美奈子、後藤由佳）が成果を報告した。また、本事業に関する取組みについて、雑誌「公衆衛生」2月号（執筆者：小野美奈子）、「月刊地域保健」12月号（執筆者：坂本三智代）で報告した。</p> <p>⑦その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮崎県保健師現任教育推進委員（田中美幸）が、厚生労働省「保健師に係る研修のあり方等に関する検討会」構成員として参加した。 ・宮崎県保健師現任教育推進委員会企画で、県北地域の保健師や行政職員を対象とした災害時保健活動に関する出前研修会（12/5：講師-国立保健医療科学院奥田博子氏）開催し、グループワークではリーダー保健師受講生が話題提供を行った。（参加者 81 名） ・地域の健康課題や関心の高いテーマで公開講座を開催し、広く保健師の実践力向上のための学習機会を提供した。 <p>新任保健師研修Ⅱ（12/3 講師-日本保健師活動研究会会長：平野かよ子氏）、中堅保健師研修Ⅰ・Ⅱ（12/2 講師-島根県立大学：永江尚美氏）、宮崎県保健師現任教育推進委員会企画（12/5：講師-国立保健医療科学院奥田博子氏、81 名参加）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健所、市町村以外の分野で働く保健師の現任教育について、公開講座の案内など学習機会、情報交換の機会を設けた。
<p>評価改善点</p>	<p>計画通り実施した。本年度より新たに組織した「宮崎県保健師現任教育推進委員会」が現任教育推進のための中核となり、平成 25 年度作成の宮崎県保健師現任教育マニュアルに沿って本事業全体の企画、実施、評価及び進捗状況の調整・管理等を行うことができた。</p> <p>新任保健師研修Ⅰ・Ⅱ、中堅保健師研修Ⅰ・Ⅱは担当保健所が運営する体制がスタートしたが、本事業の標準プログラムをもとに、各保健所が地域の状況に合わせた展開を行うとともに、コンサルタントと協働し受講生のサポートを行うことができた。その結果、各受講生が地域課題の解決に向け PDCA サイクルを基盤とした取組みを推進し、一定の成果を得ることができた。各研修プログラムの開催時期、回数、場所、内容や方法は、受講生の状況の応じた対応ができるようさらに改善していく必要がある</p> <p>また、各受講生が取り組んだ保健活動、研究成果は、各研修報告会や報告集で可視化し、学会発表・雑誌掲載など社会化し有効に発信することができた。</p>
<p>次年度計画</p>	<p>1) 引き続き、平成 25 年度作成の保健師現任教育マニュアル及び研修プログラムの検証を行いながら事業を展開する。</p> <p>①新任保健師研修Ⅰ（日南保健所）、新任保健師研修Ⅱ（小林保健所）、中堅保健師研修Ⅰ・Ⅱ（延岡保健所）、リーダー保健師研修（宮崎県立看護大学）の企画・実施・評価</p> <p>②コンサルタント登録及び派遣</p> <p>③現任教育自主グループ活動支援</p> <p>④現任教育マニュアルの評価・改善</p> <p>⑤宮崎県保健師現任教育推進体制の評価・改善</p> <p>⑥学会報告等</p> <p>2) 各研修の評価方法について検討する。</p> <p>3) 中堅保健師の実践力向上には、ワーク・ライフ・バランスとの関係が不可欠であり、宮崎県における実態を調査し、研修体制について検討する。</p>
<p>記載責任者</p>	<p>川原 瑞代</p>

事業名	児童養護施設における生きる力「性＝生」教育開発支援事業
対 象	児童養護施設の児童、児童養護施設の職員
事業組織	<p>児童養護施設の生きる力「性＝生教育」を考える研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 松本 憲子、壹岐 さより、福永 美紀、長友 舞、田多良 佳代、小野 美奈子（宮崎県立看護大学） ・ 河野 義貴（県立宮崎病院） ・ 坂本 三智代（医療薬務課） ・ 工藤 裕子（延岡保健所） ・ 松尾 祐子（中央児童相談所） ・ 前原 加奈（児童養護施設カリタスの園） ・ 安田 真里（中央児童相談所） ・ 寺原 美保子（こども療育センター） ・ 松尾 政信（延岡児童相談所）
事業計画	<p>目的：</p> <p>近年の少子化の中、学校や家庭等において、子育ての難しさが言われている。とりわけ、女子中高生の援助交際等青少年にまつわる性犯罪や重大犯罪が取りざたされており、子供たちの性の捉え方や生命（いのち）に対する価値観までも変容していると言わざるを得ない状況である。このような中、児童養護施設における「生きる力（性＝生）」教育の充実が課題となっている。</p> <p>そこで、児童養護施設職員をはじめ、福祉関係者等がネットワークを構築し、児童養護施設の入所児童に対して「生きる力（性＝生）」教育に取り組み、教育プログラムを確立し、生活の中で、「生きる力（性＝生）」教育（指導）を行うことにより、児童一人ひとりが正しい性（＝生）の価値観を持てるようになり、これら児童が成長した結果、望まぬ妊娠や若年出産による虐待の連鎖を防ぐこと</p> <p>実施内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 関係者の研究会（月1回）メンバー35名 毎月1回の研究会で「生きる力（性）教育プログラムの検討と作成を行った。 ・ 性教育媒体作成 2) 研修会の開催 ・ 性教育宮崎セミナー2014（実践編）（H26.8月開催予定） 講師6名（東京、大阪、岐阜） ・ 教育プログラム作成研修 講師：福岡県立看護大学 教授 松浦賢長 3) 支援体制整備 ・ 入所児童に対する性教育等について、協力支援体制強
実施状況及び結果	<ol style="list-style-type: none"> 1) 関係者の研究会（月1回） 毎月、生きる力研究会を開催し、8月までは、性教育宮崎セミナーと性教育プログラム開発のベースづくりを並行して行い、9月の性教育宮崎セミナー終了後は、小学校（低学年）、小学校（中学年）小学校（高学年）、中学校の4つのグループに分かれ、学習指導要領から生きる力に関する項目を抽出し、児童養護施設の子ども達に必要な教育は何かを考え、対象別の「生きる力（性＝生）」教育のプログラムとして、教育マニュアル（指導案）を作成した。 2) 研修会の開催 昨年（2013）に引き続き、性教育宮崎セミナーを開催した。昨年のセミナー受講者の要望で、本年度（2014）は、性教育の基礎編と実践編を並行して開催した。受講者

	<p>は2日間で延べ230人であり、受講後のアンケートから満足度の高いセミナーであったと評価できた。</p> <p>3) 支援体制整備 児童養護施設の入所児童に対する性教育及び相談機関として、産婦人科の医師に協力を得られることとなった。将来の公的な支援システム構築の一步となった。</p> <hr/> <p>学生の参加状況 活動内容： 人 数： 実人数（ 0 ）人 延人数（ 0 ）人</p>
<p>評価 改善点</p>	<p>県内の9か所の児童養護施設の職員の方々、宮崎県児童相談所、療育センターなどの様々な関係機関の方々が研究会のメンバーとなっているため、全員が集まったの研究会日程の設定が難しい。しかし、各グループで情報共有しながら、プログラム作成を行うことができた。また、児童養護施設の先生方の要望で、次年度は、作成したプログラム案のロールプレイをしながら、最終的な指導案を完成させることとなった。</p> <p>次年度は、メンバーの要望により、研究会を半日から終日に変更し、研究会のさらなる充実を図ることとなった。</p>
<p>次年度 計画</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「生きる力」研究会（月1回） 2) 生きる力「性＝生」教育プログラム作成 3) 性教育実践（モデル施設：カリタスの園竹の寮） 4) ネットワーク構築
<p>記載 責任者</p>	<p>松本 憲子</p>

事業名	学校版月経ヘルスケアプログラム作成事業 ～大学の研究成果を地域に還元～
対 象	思春期女性
事業組織	統 括：長鶴 美佐子（宮崎県立看護大学・教授） 担当者： 【宮崎県立看護大学関係】 壺岐 さより（助教）、長友 舞、蚊口 理恵、福永 美紀（助手） 長津 恵、田丸 喜代子（元宮崎県立看護大学助手） 【高校養護教諭】 牧野 啓子（延岡商業高校）、浦田 かおる（都城西高校）、西尾 美智子（宮崎南高校）、 谷口 節子（都農高校）、河口 えり（宮崎北高校）、米倉 藍（都城商業高校） 【県教育委員会スポーツ振興課】 内山 優子（指導主事）
事業計画	目的： 県内の思春期女性が月経に対する理解を深め、月経と生活との関連、月経トラブル予防・改善のための工夫などを学ぶことを通して、自分自身に目を向け、自らの「からだ」と「こころ」を理解し「自分を大切に作る姿勢や行動を養う」ことができるよう支援するため、県立看護大学が開発した「月経ヘルスケアプログラム」を学校現場で使用できるよう編集し、活用を図る。
	実施内容： 1. 「理論編」の視聴覚教材、テキスト等の試作品の作成と検討 2. 試作品を用いたプレ実践 3. 評価と修正
実施状況 及び結果	1. 「理論編」の視聴覚教材、テキスト等の試作品の作成と検討 8月の第6回作成委員会において、「理論編」の全体の構成と作成予定の視聴覚教材等について意見交換後、約3か月かけて試作品を作成した。 2. 試作品を用いたプレ実践：12月に、養護教諭（作成委員）による試作品を用いたプレ実践を行った。 3. 評価と修正：プレ実践後、12月末の第7回作成委員会で試作品の評価を行い、修正を行った。 4. 学校版月経ヘルスケアプログラムの広報：公立学校養護教諭理事会にて本事業の紹介
	学生の参加状況 活動内容： 人 数： 実人数（ 0 ）人 延人数（ 0 ）人
評価 改善点	本年度は「理論編」を作成し、昨年度作成した「生活編」と合わせ完成とした。2つのつながりを意識しながら「理論編」の作成を行ったために、かなりの時間を要したが、ほぼ予定通りに「理論編」の視聴覚教材やテキスト等の作成・プレ実践・評価・修正を行うことが出来た。 また計画にはなかったが、各学校への広報目的で、公立学校養護教諭部会会長や理事長と連携の下、平成27年1月に開催された公立学校養護教諭理事会にて本事業の紹介を行った。これは次年度予定している視聴覚教材の周知と配付、公開講座や研修会の開催に大いに役立つものとなった。
次年度 計画	1. 学校版月経ヘルスケアプログラムの視聴覚教材の周知と配付 完成した学校版月経ヘルスケアプログラムの視聴覚教材（DVD、パワーポイント、指導者テキスト、パンフレット）について、共催の県教育委員会とともに県内の各学校（小・中・高校・特別支援学校）に周知し、希望する学校や関係諸機関に配付を行う（平成27年8月予定）。

	<p>2. 公開講座や研修会の開催 学校関係者等を対象に、学校版月経ヘルスケアプログラムや作成した視聴覚教材使用等に関する研修会の開催を行う（平成27年8月～予定）。</p> <p>3. 報告書の作成 三年間の学校版月経ヘルスケアプログラム作成に関する取り組みを報告書としてまとめ、関係諸機関に配付する（平成 28 年 3 月予定）。</p>
<p>記載 責任者</p>	<p>長鶴 美佐子</p>

2. コンソーシアム専門部会

事業名	コンソーシアム宮崎への支援
対 象	高等教育コンソーシアム宮崎加盟機関の教職員、在学生、県内の中・高校生等
事業組織	コンソーシアム専門部会
事業計画	目的： コンソーシアム宮崎の各事業への支援をはかり、本学としても広報活動等に活発に利用していく。
	実施内容： 活動の活性化を図るため、各部会に担当者を配置し、活動状況を共有した全学的協力体制づくりをする。
実施状況及び結果	<p>平成 26 年度は 25 年度同様、教育・研究連携、学生交流、地域連携の 3 つの事業実施部会で、次の事業を実施した。括弧内は担当者。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育研究連携－FD 事業（橋口）、単位互換（コーディネート科目事業）（川北、工藤） ・学生交流　－学生インターゼミナール事業（橋口）、インターンシップ事業（大藤）、就職活動事業（古場） ・地域連携　－合同進学説明会事業（工藤）、公募型卒業研究テーマ事業（橋口）、県との連携強化（今年度各大学選出せず） <p>また、事業を機動的に進めていくために、昨年同様、企画会議での事業企画や運営について協議が行われ、実施部会長主導で事業が進められていった。本学が今年度関連した各事業について以下にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FD 「平成 26 年度高等教育コンソーシアム宮崎合同研修会」と題した、FD 研修会が、宮崎公立大学にて、3 月 1 日に開催された。参加校は、宮崎大、公立大、看護大、南九大、産経大、国際大、南九短大、学園短大、都城高専であった。各大学の報告と事例発表が行われ、活発な討議が行われた。 「平成 26 年度高等教育コンソーシアム宮崎 FD・SD 研修会」が平成 26 年 10 月 16 日に宮崎大学で開催された。研修の概要は、相手に伝える力は指導力の根幹を支えるもの、教育の質向上において教員の伝える力を高めるため、アナンサーから講演をうけそれぞれの伝える力を振り返る会であった。参加校は宮崎大学（各学部の教員）、南九州短期大学、都城工業高等専門学校、県立看護大学であった。講演後、伝える力について教育の現場体験を交えて意見交換が行われた。 ・コーディネート科目 今年も宮崎公立大学を会場に 10 月 4 日から 11 月 29 日まで「宮崎の郷土と文化」のテーマで実施され、76 名の受講者があった。本学からの履修はいなかった。15 回の授業のうち 1 回の授業（10 月 11 日）については、本学より講師として花野典子教授が「今、求められる子育て支援」と題して講義を行った。 ・単位互換 本学からは、「宇宙地球科学」（小河准教授）、「宮崎の文化」（大館准教授）の 2 科目を提供したが、受講生はいなかった。また本学の学生で、他大学の単位互換科目を履修した学生は今年もいなかった。 ・合同進学説明会 授業体験会を 12 月 14 日（土）に、宮崎公立大学で延べ 250 名を集め実施された。まず、

	<p>参加者全員へのガイダンスが行われ、その後、各会員校の模擬授業を実施（10校延べ24講義）。本学からは、新田なつ子教授が講義を行い、2コマ併せて約70名が受講した。41名の高校生の参加があり、97.6%が本学への関心が高まったと答えた。</p> <p>・学生インターゼミナール事業 12月6日に宮崎産業経営大学にて開催された、第13回宮崎学生インターゼミナールでは、本学から3年生の5名1組とグループと4年生の2名1組のグループの計2組が参加した。</p>
	<p>学生の参加状況 活動内容： 人 数： 実人数（ 7 ）人 延人数（ 7 ）人</p>
<p>評価 改善点</p>	<p>本学は、コンソーシアム事業に対して協力可能な事業に関しては、積極的に協力しているといえる。 全体として、平成26年度においても企画会議を中心に、迅速に事業が進められていった。ただし、単位互換に関しては、本学学生の参加は無く、これまでの全体の参加者数も少ない。今後の事業の見直しが必要となろう。</p>
<p>次年度 計画</p>	<p>平成27年度においても、コンソーシアムみやざきの柱となる地域連携の3つの連携事業（教育・研究連携、学生交流、地域連携）に協力を行っていく。</p>
<p>記載 責任者</p>	<p>大館 真晴</p>

3. 感染管理認定看護師教育課程

3-1) 事業報告

〈事業組織〉

宮崎県立看護大学 看護研究・研修センター

入試委員会：小野美奈子、邊木園幸、武田千穂、栗原保子、長鶴美佐子、
福田真弓（宮崎大学医学部附属病院）、篠原真理子（宮崎市郡医師会病院）

教員会：小野美奈子、邊木園幸、武田千穂、栗原保子、寺島久美、勝野絵梨奈、
境孝子（宮崎県看護協会）、音成佐代子（国立病院機構都城病院）

運営連絡会：小野美奈子、邊木園幸、武田千穂、栗原保子、寺島久美、勝野絵梨奈、
川原瑞代

センター事務局：杉田加代子

〈事業計画〉

教育理念

生命の尊厳を基盤として豊かな人間性と多職種と協働できる協調性、深く高度な専門知識・技術を身につけ、感染管理の分野で、看護の質の向上と人々の健康と保健・医療・福祉の向上に寄与できる看護職者の育成を目指す。

教育目的

感染症に関する高度な専門知識を身につけ感染予防、監視、管理ができる能力、感染管理の質向上を目指した教育・指導ができる能力を育成することにより、施設内においてリーダーシップを発揮し、医療の安全と質の向上に力を発揮できる人材を育成する。

感染管理認定看護師に期待される能力

施設の中心となって医療関連感染の予防・管理システムを構築し、医療関連感染の予防と管理が実践できる。システムの構築と実践のために、以下の能力を身につけることができる。

- 1) 各施設の状況を評価し、感染予防・管理システムを組織的かつ戦略的に構築するための計画を立案できる。
- 2) 各施設の状況にあわせた医療関連感染サーベイランスを実践できる。
- 3) 感染予防・管理の視点から、現場で実施されているケアを評価し、エビデンスに基づいたケアの提供のための変革が行える。
- 4) 施設内のすべての人々に対して、感染予防と管理のための指導を実践できる。
- 5) 多職種と協働して適切な方法で問題解決へ向けた相談・調整が行える。
- 6) 施設内のすべての職種に対して、職業感染防止対策を推進できる。
- 7) 感染予防・管理の視点からファシリティ・マネジメントを推進できる。
- 8) 関連組織と協働して、パンデミック等の緊急事態を想定した準備と対応ができる。
- 9) 施設内のすべての人々の基本的権利を尊重した感染予防と管理が実践できる。

教育課程

1. 教育期間

平成 26 年 8 月～平成 27 年 3 月

2. 授業科目および区分

区分	教科目	必須・選択の別	時間数	単位
共通科目	看護管理	必須	15	1
	リーダーシップ	必須	15	1
	文献検索・文献講読	必須	15	1
	情報管理	必須	15	1
	看護倫理	必須	15	1
	指導	必須	15	1
	相談	必須	15	1
	対人関係	必須	15	1
	臨床薬理学	必須	15	1
	医療安全管理	必須	15	1
	専門基礎科目	感染管理学	必須	30
疫学と統計学		必須	30	2
微生物・感染症学		必須	45	3
医療管理学		必須	15	1
専門科目	医療関連感染サーベイランス	必須	45	3
	感染防止技術	必須	30	2
	職業感染管理	必須	15	1
	感染管理指導と相談	必須	15	1
	洗浄・消毒・滅菌とファシリティ・マネジメント	必須	15	1
演習	学内演習	必須	90	3
実習	臨地実習	必須	180	4
合計			660	33

3. 修了要件

次の各号の全てを満たす場合とする。

- ・ 認定看護師に必要な各分野の所定の単位をすべて修得していること。
- ・ 出席時間がそれぞれの科目について、履修すべき時間数の 5 分の 4 以上であること。
- ・ 認定看護師に必要な全教科を含む修了試験において 80%以上の成績を修めていること。

4. 学年暦

	項目	予定日
8 月	入学式	5 日 (火)
	研修生オリエンテーション等	5 日 (火)
	授業開始	6 日 (水)

	項目	予定日
9月		
10月		
11月	補講期間 科目試験期間	17日(月)～19日(水) 20日(木) 25日(火) 26日(水)
12月	追・再科目試験期間 臨地実習 臨地実習中間報告会 冬期休業開始	1日(月) 2日(火) 5日(金)～22日(月) 24日(水) 25日(木)
1月	冬期休業終了 臨地実習 臨地実習最終報告会	7日(水) 13日(火)～28日(水) 30日(金)
2月	追実習期間 演習プログラム発表会 修了試験	2日(月)～6日(金) 12日(木) 13日(金) 23日(月) 26日(木) 27日(金)
3月	追・再修了試験 修了判定結果発表 修了式	10日(火) 20日(金) 24日(火)

〈教育課程の実際〉

1. 委員会等の開催

入試委員会：4月28日、5月29日、6月20日、9月11日、12月16日

教員会：4月24日、8月5日、8月29日、12月3日、平成27年3月10日

実習指導者会議：9月30日、平成27年2月13日

2. 入学試験および結果の概要

出願書類受付期間：5月12日(月)～5月16日(金)

入学試験：6月14日(土)

合格発表：6月27日(金)

入学前ガイダンス：7月11日(金)

	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	実質倍率	入学者数
県内	15	15	1.87	15	15	1.16	14
県外		13		7	4		3
合計	15	28	1.87	22	19	1.16	17

3. 学年暦の推移

	項目	実施日
8月	入学式 研修生オリエンテーション等 授業開始	5日(火) 5日(火) 6日(水)
9月		
10月		

	項目	実施日
11月	科目試験期間	17日(月) 18日(火) 19日(水) 20日(木) 25日(火) 26日(水)
12月	再科目試験 臨地実習 臨地実習中間報告会 冬期休業開始	1日(月) 2日(火) 5日(金) ~22日(月) 24日(水) 25日(木)
1月	冬期休業終了 再科目試験 臨地実習 臨地実習最終報告会	7日(水) 8日(木) 13日(火) ~28日(水) 30日(金)
2月	オープンキャンパス 演習プログラム発表会 修了試験	3日(火) 13日(金) 26日(木)
3月	修了判定結果発表 修了式	20日(金) 24日(火)

4. 臨地実習について

1) 実習施設および研修生数

実習施設名	研修生数
国立大学法人 宮崎大学医学部附属病院	2人
宮崎県立宮崎病院	1人
独立行政法人国立病院機構 都城病院	2人
独立行政法人国立病院機構 宮崎東病院	1人
宮崎市郡医師会病院	1人
国立大学法人 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院	1人
鹿児島市立病院	2人
鹿児島市医師会病院	1人
総合病院 鹿児島生協病院	1人
国立大学法人 大分大学医学部附属病院	2人
日本赤十字社 大分赤十字病院	1人
大分医師会立アルメイダ病院	1人

5. 実習最終報告会

日時：平成27年1月30日(金)

参加者数：研修生16人、学内教員9人

6. 感染管理プログラム発表会

日時：平成27年2月13日(木)

参加者数：研修生16人、実習指導者12人、学内教員8人

7. 修了者および認定審査合格者数

	入学者数	休学者数	退学者数	修了者数	認定審査合格者数
県内	14	0	1	13	13
県外	3	0	0	3	2
合計	17	0	1	16	15

8. 研修生支援について

個別支援：個人面接、状況に応じた学修方法等の助言

学修支援：修了試験後の科目強化として補講の実施

- ・ 疫学と統計学（3月5日3コマ）
- ・ 医療関連感染サーベイランス（3月6日、9日2コマずつ）
- ・ 微生物と感染症学（3月10日4コマ）
- ・ 認定審査に向けた模試を3回実施（3月4日、13日、16日）

9. 認定看護師教育課程に関する広報活動について

1) 随時、学外ホームページに情報公開

入学式、講義の様子、修了式

2) 募集要項の配布

県内；140 医療機関

九州管内；260 医療機関

3) 主任・専任教員による病院訪問

県内；27 医療機関

4) 宮崎県看護協会理事会において説明

日時：平成27年1月17日（土）

5) オープンキャンパス

日時：平成27年2月3日（火）14:00～16:00

参加者数：県内8名、県外2名

10. 教育環境について

研修室：教育研究棟3階に位置し、18名分の席を確保している。デスクトップPC2台およびプリンター1台を常設し、研修生は各自のIDとパスワードを入力し自由に活用できるようになっている。また、個人ロッカー、冷蔵庫を設置し、荷物の整理等に活用している。研修室の利用時間は原則21時までであるが、試験前等は24時までの利用申請を行い利用していた。また、土日も利用申請を行い、自己学習に利用していた。

情報処理室：科目によっては情報処理室で講義が行われ、学部生が利用していない時間は、利用申請を行い活用していた。

病態学実習室：実験演習以外に、グループワークや個人ワークに利用していた。

11. 認定審査結果について

2015年第23回認定看護師認定審査を16名が受け、15名が合格した。(内訳；県内修了生13名、県外修了生2名)

〈評価および次年度への課題〉

開講初年度に募集定員を満たす入学者を得られたことは、宮崎県内のニーズにこたえた成果といえる。しかし、開講初期に退学が1人あったことから、学修への不安を解消できるように学修支援をより充実していく必要性が明らかとなった。

全教科において、各科目担当者が最新の知識及びEBNに基づく講義を展開し、研修生は感染管理に必要な高度な知識と技術を学ぶことができたと考える。また、修了直前に3科目11コマの補講を実施したことで、苦手意識の強い科目強化につながったと考える。

実習においては、研修生とメールで実習の進捗状況を確認しつつ、各施設を2～3回ずつ訪問し実習指導者と情報交換を行い、学びが深まるように調整した。その結果、研修生は混乱を生じることなく24日間の実習を終えることができた。

また、感染管理プログラム発表会では、全実習施設から実習指導者が参加し、研修生の発表に対し助言があり、学びを深めると同時に自施設の課題の明確化が図られた。

さらに、認定審査に向けて在学中に3回の模試を実施したことにより研修生は、自己の知識不足科目や強化が必要な科目が明確になり、今後の取組への課題が定まった。

次年度は、研修生の確保に向けて、県内医療機関の看護管理者との交流機会を模索し、認定看護師教育課程の現状と支援の必要性を説明する必要がある。研修生に対しては修了までの学習支援強化が課題である。さらに、修了後の活動に活かせる専門知識の強化と認定審査に向けた試験対策の強化を図り、修了生全員合格となるように取組んでいきたい。

平成27年度は、本教育課程の開講の翌年にあたり、認定看護師教育機関として認定された教育機関が認定要件を実際に満たしていることを確認するため、日本看護協会より認定確認審査を受ける予定となっている。平成26年度の教育課程運営の自己点検・評価を確実にを行い、審査に備えていきたい。

〈教育課程の様子〉



〈記載責任者〉

感染管理認定看護師教育課程主任教員 邊木園幸